

第1回 河内長野市総合計画（第3部会） 議事要旨

日時:令和6年10月15日(火)

午前9時30分から

場所:802会議室

1. 開会

○事務局あいさつ

2. 議事

(1) これまでの意見収集の経緯について（追加報告）

→河内長野市ブランディング担当より、資料1に基づき河内長野市のブランディング事業について説明。

<質疑>

部会長：自分自身が河内長野市に対して抱いていた印象が入っており、納得感があった。

安心・自然・愛着がすごいと感じている。大阪の他の市のアンケートでは「仕方がないから住んでいる」という意見が多いが、河内長野市には市が好きで住んでいる人が多い。一方、市の魅力発信が課題とのことで、それにも同意する。大阪のふるさとのような土地であることをうまく発信し、もう少し知ってもらえればよい。

上尾委員：自然は沢山あるため、PRしていくべきだと思う。具体的にはどこを自然であると思うのか市に聞きたい。

市事務局：河内長野市全体が自然体で呼吸しながら過ごしていくようなところだと感じている。環境面の自然だけではなく、大きな要素として自然を取り上げた。

堀川委員：安心・自然・つながりとは違い、変化し続ける、は目標ではないか。

市事務局：職員一人ひとりのインナーブランディングとして出している。ルーティン化された仕事であっても何か工夫できないか、と考えることで起こる変化が、河内長野全体の変化につながればよい。職員一人ひとりにとって、納得いく内容になれば、ということで「変化し続ける」を目標とした。

大山委員：取り組み自体に感銘を受けた。しかし、同年代の人が市外に転出していることについてどう考えているのか。人口が減り、有名企業が撤退した。今時点での1年生から6年生の人数は4131人だが、6年後には3099人となる。6年で1000人も減る計算である。このような状況を打開するためにブランディングをどうつなげるつもりなのか。結果を出さなければいけない。

市事務局：V字回復の一つの起爆剤としたいと考えている。まずすべきことは、職員一人ひとりが河内長野市のことを好きであり、市に来てほしいと心から思うことである。その思いが市民に伝わり、河内長野のすばらしさを発信してもらえるような事業になればと考えている。

副部長：安心、自然、1000年、変化し続ける、というのわかるが、自分が外から帰ってくると、河内長野市を今後どうするかという話が多い。「つながり」「愛着」が他の市よりも多いとあるが、その理由にヒントがあるのではないか。

市事務局：なぜここまで市のことを良くしたいと思っているのかは聞きたい。

副部長：18歳まで河内長野市に住んでいた。協力するなら河内長野市だと思い、協力している。18年しか住んでいないが、みなに共通する何かがあると思う。そこを伸ばすことができれば良い。「好き」であれば市はうまく回り続ける。愛着・つながりについて考えたら面白い。

若林委員：良いところの裏に悪いところがあると思う。自然の裏には不便がある。社会移動が少ないエリアにおいては、今後も年齢が上がり、不便になっていく。不便なところを良くしていく必要がある。新興住宅・ニュータウンに注目がいつているが、それ以外のエリアにも目を向けないと、その市民からの反感がある。

市事務局：だんじりをはじめ、地域と地域をつなげるという意味も考えこのワードを選んだ。その視点も忘れずに進めていけたらよいと思う。

（２）10年後の「ありたい市の姿」について（協議）

→事務局より、資料2-1・2-2・2-3に基づきワークショップ内容について説明。

＜各班の発表内容＞

1班：防災に関して、小中学生から高齢者まで防災でつながっている。

歴史文化に関して、歴史文化が子どもたちによって継承されるまち、芸術家が多く輩出されるまち。

自然に関しては、自然の豊かさと観光客が多く集まるまち。

交通については、自動運転などで移動に苦労しないまち。

住環境については、子どもが住みやすいまち。

地域づくり・ボランティアでは、お互いが助けあうまち。

また、それらをまとめて、「おもしろいことでつながりができるまち」とした。

2班：駅前整備について議論が盛り上がった。河内長野市にある沢山の文化財を活かし、博物館や美術館を駅前に整備して明るい駅前とすればよいのではないか。また、駅前の駐車場・ノバティについて市役所が変わっているというのはどうかという話があった。駅自体についても、もっと明るく降りたくなるような駅を目指せばよいのではないか。

また、市の活性化について、観光都市として貴船のような川床を活かした観光地になればよいのではないかという話があった。インバウンド向けの情報発信も必要である。

子育てについては保育料がタダになるなど市の資源が子育て施策に投入されていることが望ましい。

また、明るいまちを目指すにあたり、市ホームページをもっと明るく楽しく見やすく情報を取りやすいものにする必要があるのではないかという話がでた。

住みやすさについては、愛着を持っている人が住み続けられるよう、市内で生活が完結できるよう、無料WiFiなどDX化が進めば、河内長野市の自然が豊かだからこそその不便さというものが解消されるのではないか。

市民参画については、市の職員が地域の会議をリードしていく必要がある。

防災については、河内長野の災害に強いという強みを活かし、企業を誘致するのはどうかという話もあった。市の安心安全を活かしたまちづくりを進めていければよい。

3. 事務連絡

→事務局より、事務連絡について説明

4. 閉会

(以上)